

日本ブランド発信事業

錦の美—日本の伝統織物を発信—

2016年3月

「日本ブランド発信事業」専門家

錦の伝統織物作家 龍村周

日本ブランド発信事業としてインドのニューデリー市とバラナシ市で講演、展示と交流会を開催していただきました。

日本の伝統織物「錦」の世界を海外で発信する大変意義のある事業となりました。

内容は錦の意味、伝統織物の制作工程、特徴、学問や技術、織物の紹介など多岐に渡り、日本の織物とその文化を深く知っていただくために映像での解説も含め分かりやすくお話をさせていただきました。今回の事業では特に展示と映像は効果的であったと感じております。

■ Lecture on the Beauty of "NISHIKI"

Japanese Traditional Silk Weaving

by Master AMANE TATSUMURA

March 15, 2016 -New Delhi



(講演 FICCIにて、ニューデリー)

【注】FICCI:インド商工会議所連合会

2016年3月15日(火)はニューデリー市にあるFICCIにて講演と展示を致しました。100人近くの参加者でFICCI関係者はもちろん、半分は学生にお越しいただきとてもバラエティーに富んだ参加者で有意義な時間となりました。
また主要英字新聞社3社からの取材もあり、日本の伝統織物についての注目度を感じました。

インドもまた古くから織物を制作している国で、様々な種類の織物や紋様があり、日本で作られている織物と比較してもどこか繋がっているような気さえて、親近感が湧き、織物を通して文化交流が栄えていけるのではと手応えを感じました。



(講演 FICCIにて、ニューデリー)

■ Lecture on the Beauty of “NISHIKI”

Japanese Traditional Silk Weaving

by Master AMANE TATSUMURA

March 16, 2016

Jasmin Hall, Radisson Hotel

Varanasi



(講演 Jasmine Hall, Radisson Hotel バラナシ市にて)

3月16日(水)はバラナシ市にて講演と展示を致しました。130名ほどの参加者となりました。バラナシ市は特に京都市とパートナーシティの提携に調印した経緯もあり、さらに織物の講演ということで非常に注目されていた事業でした。

参加者には織物業に携わる方々が多く来られて、とても熱い思いをお聞かせくださいました。

長年日本でも職人不足や後継者不足が問題となっておりますが、インドにおいても全く同じ問題を抱えており、将来の織物業を考えるには大変密な意見交換ができたのではと思います。

また記者会見やテレビ取材など多くのメディアにも注目されており、バラナシの方々に
 としての織物業の大切さを感じた次第です。



(英字新聞「Hindu」紙掲載 バラナシ市)

■3月17日(木)には104年前からある Ramnagar weavers society に招待していただき、現地の織物工房を見学することができました。

機や道具など少しずつ形は違いますが、特にジャカードなどは日本のものともあまり変わらない姿で、改めて世界共通であることを認識致しました。



(Ramnagar weavers society、バラナシ市にて)

最後に本事業は日本の伝統織物をインドに発信するための第一歩であると捉えておりますが、成果としては新たな交流が芽生えたのではと感じております。また課題も見えてきましたので、日本のブランドを広めるためにはこれから先常に情報発信し、交流していくことが将来につながる道になっていくのではないかと思います。

また、今回携わって頂いたインドでの関係者の皆様にはぜひ私どもの京都の工房にお越しいただきたいと願っております。

本事業に際して、ご尽力いただいた日本外務省、日本大使館、FICCI 関係者、The Indian Silk Export Promotion Council 関係者の皆様にはこのような素晴らしい機会を設けていただき改めて感謝申し上げます。

【参考リンク】

[外務省「日本ブランド発信事業」ウェブサイト](#)

[株式会社龍村光峯 ウェブサイト](#)